

I 学校の概要

学力向上モデル校事業 琴平町立琴平中学校

◆生徒数及び教員数

○児童生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
2学級	2学級	2学級	2学級	8学級
51名	57名	55名	7名	170名



○教員数 23名

◆学校の特色

本校は町内唯一の中学校であり、琴平、榎井、象郷の3小学校(将来的に統合予定)からの生徒を受け入れている。少子化が進み、現在はかつての3分の1程度の小規模校となっている。各学級の生徒は30名以下であり、ここ数年間、生徒指導上の大きな課題は見られず、生徒はのびのびと学校生活を送ることができている。一方、不登校傾向の生徒が10名程度おり、大きな課題となっている。施設面では、校舎改築が終了し、ICT設備をはじめ恵まれた環境の中で教育活動が展開できる状況にある。

また、将来の1小1中の連携を見据え、今年度から英語科、家庭科で中学校教員が専科として各小学校の授業を担当する取組を始めている。

II 研究主題等

研究主題

社会性を育む協働的・探究的な学習を実現する指導体制、方法の研究
～ バズ学習、小中連携を活かした指導体制の工夫を通して ～

◆研究主題設定の理由

新学習指導要領の完全実施に向け、これまでも継続的に協働的な学びの実践に取り組んできていた。しかし、各教科や教師個人の取組にとどまっている面が見られ、学校全体として共通理解し、共通実践を行う所には至っていなかった。そこで、かつて仲多度・善通寺地域で実践されていた協働的な学習の取組であるバズ学習を参考にしながら、学校全体で共通実践できるシステムを構築し、現在、求められている協働的・探究的で深い学びを実現する一つの方法として提案していきたい。

また、小中連携の取組からも、小中をうまくつなぐ指導体制や方法について研究を進め、どのような場面でも円満な人間関係を築き、自らを高めることのできる社会性の育成につなげたい。

協働的・探究的な学習するための環境整備

「バズ学習」

バズ学習は、小グループで特定のテーマについて討論させる学習方法

※バズ (buzz) という語は、ハチがブンブン飛ぶ様子を表し、活発な話し合いを意味する。

[バズ学習の基本的な実践方法]

1. 4人のグループを作る
2. 共通のテーマをもとに意見を出す
3. さらに新しい考えをお互いから引き出す
4. テーマに対する見解をまとめる



◆研究内容及び方法

① 協働的・探究的な学びのモデル（琴中バス学習）についての共通理解

現職教育の中で、教科を超えて学校全体で取り組むモデル（図1）をもとに、各教科において実践する上で課題となること等について検討し、本校のモデルを確立する。

協働的・探究的な学習にするための環境整備

琴平中学校 バス学習の研究の視点

1. バス学習の「ねらい」を生徒と共有し、考えを深めることができるような「学習形態」や「話し合いの方法」、「まとめ方」の支援は適切だったか
 2. バス学習を生かして全体での学びの深まりにつながるための教師のコーディネート力や工夫は有効だったか
- (+αの教科に特化した視点として)
3. バス課題は適切であったか
 4. 学習課題の解決につながる活動となっていたか



(図1)

② 各教科授業等での実践及び検証と改善（琴中バスに特化した授業公開、研究討議）

授業公開を実施し、バス学習を取り入れた授業実践を行うことを通してより効果のある活動のために必要となる視点を洗い出す。（図2）

協働的・探究的な学習にするための環境整備

教員研修計画

- ①全体研究授業（5回実施）
 - ・ 特設の時間を設定して、研究授業を行う。1学級を公開し、全職員が参観する。
 - ・ 授業後、**KJ法による研究協議**を行う。
 - ・ 大学の先生や指導主事からの指導・助言を受ける。
- ②校内公開授業

(※若年教員は2回実施。若年以外の教員は1回実施)

 - ・ 指導案、資料、座席表等を2日前までに全員の机上に配付する。
 - ・ 各教科の職員は基本全員参加、その他の職員も可能な限り参観する。**授業参観カード**を記入し、参観後に授業者に渡す。



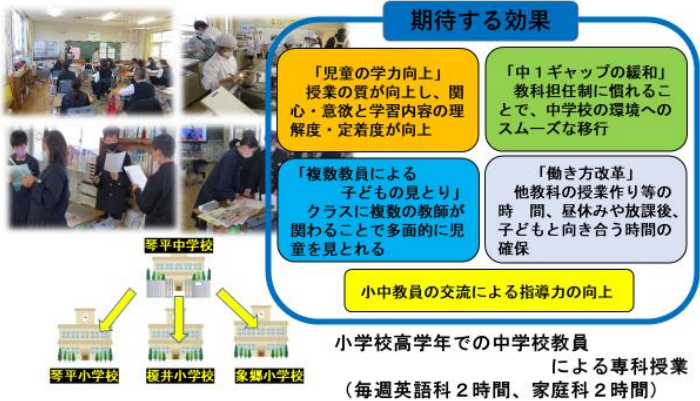
(図2)

③ 校区内小学校と連携し、小学校での実践研究（小学校高学年での中学校教員による専科授業）

小学校における専科授業の実践においても、バス学習を用い、その効果や専科教員による指導方法（体制）について検証する。（図3）

小学校での中学校教員による専科授業

小学校における専科授業でも、バス学習を取り入れた指導体制で、9年間のスパンで見とり、育てる体制



(図3)

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

(生徒)

授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいますか。

指標 「①取り組んでいる+②どちらかといえば取り組んでいる」の合計



指標の達成に向けた実践

(1) 2年保健体育(単元「球技」ソフトボール)

本時の学習課題：連携した守備について考えよう。
 本本時のバズ課題：アウトを取れる守備位置を探そう！
 バズ学習のねらい：チームで意見を出し合うことで、連携して守る方法を考えやすくする。

(2) 生徒の様子

実践事例 1 バズ学習を取り入れた授業づくり

実践事例 1 バズ学習を取り入れた授業づくり

実践事例 1 バズ学習を取り入れた授業づくり

実践事例 1 バズ学習を取り入れた授業づくり

実践事例 1 バズ学習を取り入れた授業づくり

実践事例 1 バズ学習を取り入れた授業づくり

バズ課題を提示
 アウトを取れる守備位置を探そう！
 ゲームを観察しながら守備位置を考え、気づいたことをワークシートに記入しよう。
 「ねらい」を生徒と共有
 解決に向けた意欲と見通しをもつ
 何を学ぶか

攻・守・撮影：3つの役割分担
 全体の動きが分かりやすいように動画を撮ろう。
 ゲームを見ながら、守備位置を確認しよう。
 どのように学ぶか
 バズ学習
 2階から守備の様子を撮る。
 撮影した動画をもとに、バズ学習で守備位置を話し合う。

バズ学習で守備位置を考える。
 学びの再思考
 連携を考えるとこっちの方が位置としてよくない？
 どうように学ぶか
 でも、壁にいたとき対応できる？
 動画で見ると自分の守備位置が分かりやすいね。
 みんながワークシートにかいた守備位置をまとめていこう。共通点は？
 自分が意識して立っていた場所と同じだ。

考えた守備位置を発表し、全体で共有する。
 まとめと振り返り
 私たちのグループは…
 何ができるようになるか
 今日、チームで連携しての守備を考えてもらいました。次回は、この方法を実践で試してもらいます。
 学び実感
 学びを、次なる探究心の芽生えへとつなげる

(2) 生徒の様子

本時の学習課題は、前時の生徒の振り返りを基に設定されており、生徒は自ら課題意識をもち、「何とかしたい。」という必要感をもって課題に向き合っていた。また、タブレットによる撮影により生徒はバズ学習で守備位置を考える際、全体の位置や動きを確認できることで、活発な意見交換に繋がっていた。

【生徒の振り返りより】

守りの位置をみんなで話し合って決めてやってみた結果、上手くいった所とダメだった所ができました。ダメだった所は、話し合って次はこうしようと決めたので、効果があるかみていきたいです。

◆指標設定と達成に向けた取組

(生徒)

学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか。

指標 「①できている+②どちらかといえどできている」の合計



指標の達成に向けた実践

(1) 3年国語(単元「夏草—『おくのほそ道』から」)

本時の学習課題：芭蕉が旅に出た目的とは
本本時のバズ課題：資料を活用しながら芭蕉の旅の目的を考えよう。
バズ学習のねらい：個人で読み取るには難しい資料をバズ学習で考えることで、多様な意見を出し合い、本時の課題を解決しやすくする。

(2) 授業の流れ

バズ学習を取り入れた授業づくり 実践事例 2

江戸時代の平均寿命からどんなことが分かるかな？

芭蕉は、中国の古人にあこがれていたんだ。

どのように学ぶか

⇒ジグソー法を取り入れ、各自が資料から旅の目的を探る。

班の中で4人に配付する資料が異なる。

バズ学習を取り入れた授業づくり 実践事例 2

バズ学習で交流し、それぞれの資料から考えたことを伝え合う。 **学びの再思考**

どのように学ぶか

芭蕉はなぜ名所にこだわったの？

中国の詩人のどんな所にあこがれていたの？

芭蕉は15の県を歩いて回ったよ。

彼らが旅に生きたことかなあ。

尊敬している人が訪ねた場所だからみただよ。

ジグソー法

芭蕉の体力と忍耐力と精神力はすさまじいね。

各グループで芭蕉の旅の目的をまとめる。

バズ学習を取り入れた授業づくり 実践事例 2

【香川大学教職大学院 清水顕人先生による指導・助言】

各班、バズ学習で話し合った意見を提示。全体で芭蕉の旅の目的を話し合う。

学び実感

芭蕉の旅の目的は研究者によっても様々なで定説はありません。でも、このようにいろいろな資料や文章から考察することで、これから学習する芭蕉の俳句の意味に迫る手助けになるかもしれない。

学びを、次なる探究心の芽生えへとつなげる

まとめと振り返り

何ができるようになるか

①バズ学習3つの基本仮定（前回確認）より

「信頼関係・動機づけ・差異から共通性へ・個と集団の成長」

②本時のバズのねらいについて ③知識構成型ジグソー法について ④ジグソー法が支えるもの ⑤取りかかりやすいところから… ⑥研究を進める上で大切にしたいこと

(3) 生徒の様子

授業の導入で修学旅行を扱うことで、古文な苦手な生徒も芭蕉の旅の違いをイメージしやすく、生徒は興味を持って取り組んでいた。また、今回は「ジグソー法」を取り入れた授業だったが、生徒は自分に与えられた資料から旅の目的を読み取ろうと苦労しながらも諦めずに取り組む姿が見られた。

【生徒の振り返りより】

芭蕉が作った「おくのほそ道」はその時代のガイドブックのようなものだったと思った。あの短い俳句で、その場所の素晴らしい情景が浮かび上がってくる表現ができることがすごいと思いました。

◆指標設定と達成に向けた取組

(生徒)

授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

指標 「①思う+②どちらかといえば思う」の合計

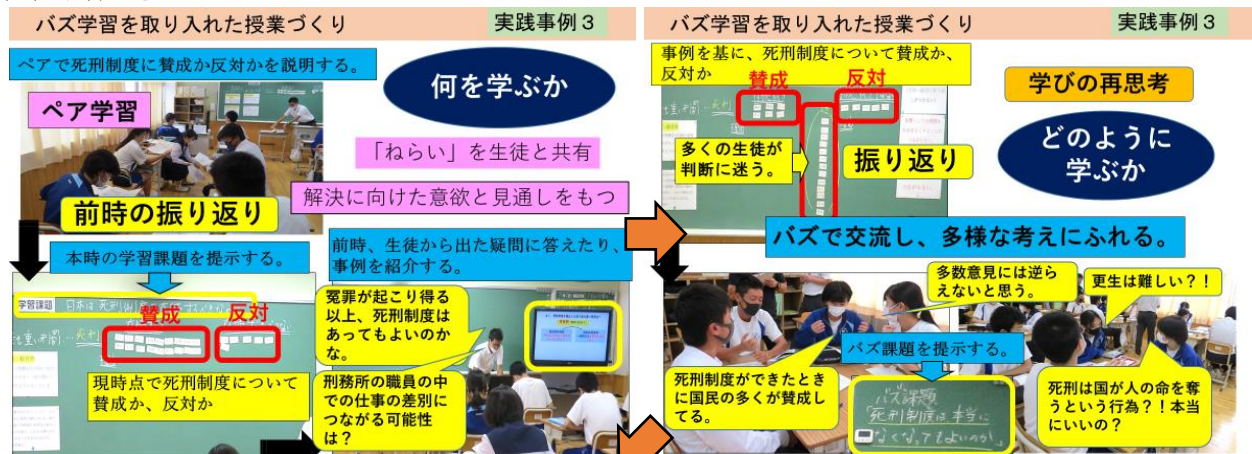


指標の達成に向けた実践

(1) 3年社会科 (単元 人権を守る裁判)

本時の学習課題：日本は死刑制度を存続するべきなのだろうか。
 本本時のバス課題：死刑制度はなくなってもよいのだろうか。
 バス学習のねらい：バスで意見を交流させることで、多様な意見を引き出し、死刑制度に関する認識や考えを深める手がかりとする。

(2) 授業の流れ



(参考) 授業で実施している振り返りシート

1年 理科

3 協働的・探究的な学習を振り返る場面づくり

学習課題： 植物を分類する

教科書： P161-P162 <いろいろな生物とその共通点 No.09>

学習課題： 金属と非金属の性質のちがいを調べる

教科書： P161-P162 <身のまわりの物質 No.01>

生徒が毎時間記述

(3) 生徒の様子

「死刑制度」について考える難しい内容であったが、教師が説明しすぎず、有効な資料を効果的に提示したことで、生徒の思考の揺さぶり、見方や考え方の広がりを感じられる授業であった。また、生徒は他者と対話しながら考えを練り直したり、教師の問いかけで適宜振り返ったりと主体的に活動できていた。

【生徒の振り返りより】※一部抜粋

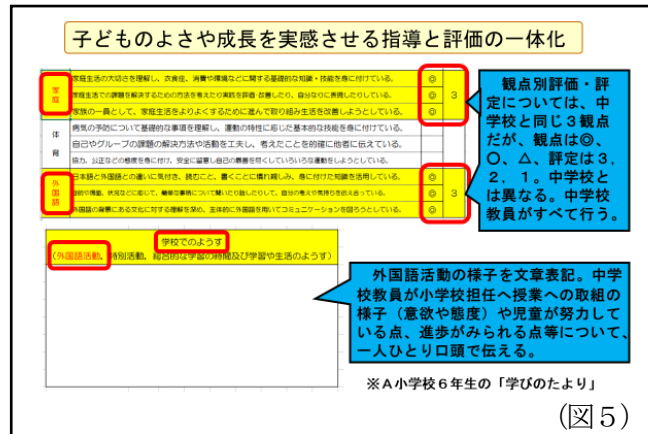
「死刑」を存続するかどうかの正解を出すのはできないんだと思う。…そもそも「死刑」になるような事件が起こらなければいい話なんだけど、…自分にできることはあるのか考えていきたい。

(図4)

◆特徴的な取組

【小学校での中学校教員による専科授業】

令和3年度は、中学校の教員が小学校5年生家庭科と小学校6年生外国語を担当した。高学年とした理由は、教科の内容が、高学年ではより高度になり、専門的な指導力や教材教具の準備が必要となる。そして、知的好奇心や学力差に応じた指導がより必要であると考えてのことである。また、専科授業での毎時間の授業評価、学期末・学年末の観点別評価・評定は授業者である専科教員がすべて行い、児童の外国語活動の様子の表記については、一人一人の児童について学級担任へ口頭で伝えた。(図5)



児童アンケートからは「中学校のイメージがわいた」「授業が分かりやすく、質問にもしっかりと答えてくれる」と専科授業に肯定的な意見がほとんどだった。また、小学校教員アンケートからは「複数教員で子どもの見とりができる」「中一ギャップの緩和に繋がる」「子どもの学習内容の理解度や定着度の向上につながっている」とこちらも肯定的な意見がほとんどだった。(図6)

中学校専科教員からは「学校間での既習内容の差がなくなる」「中学校の学習につながる」という肯定的な意見とともに、「プリントやテスト作成に苦労した」「小中の違いから成績処理・評価が難しかった」「事前準備が大変だった」という本年度実施してみたの課題も浮き彫りとなった。(図7)

児童アンケートより ※一部抜粋

- 小学校との違いや中学校のことをたくさん教えてくれるので、イメージがわいた。
- 中学校の英語の授業のことを知ることができて良かった。
- 英語の発音がきれいで、分かりやすい。質問にしっかりと答えてくれる。
- 家庭科が好きになった。糸で縫うのは難しかったけど、中学校の先生が来てからできるようになった。説明の仕方が分かりやすい。

小学校教員アンケートより ※一部抜粋

- (家庭科)細かい作業になると難しい児童もいるが、個に応じた支援をしてくれるので、担任も広い視野で児童を観察できる。十分に学習理解の保証につながっていると思う。
- 知っている先生が中学校にいるという状況は、児童が安心して中学校へ通える要因になる。

(図6)

●学校行事の関係で時間が確保できないときがある。

専科教員アンケートより ※一部抜粋

- 今までは、中学校に入学してきた時に、学んできた内容に違いがあったが、その点は解消される。
- (外国語)中学校に入ってくるまでに抑えておきたいことを明確に伝え習得させられる。(書くことも授業で設けることができる。)
- (外国語)小学校の学習内容を知ることができ、中学校の授業に生かすことができる。また、中学校の内容を踏まえて、小学校で指導ができる。

- 小学校と中学校での学習のルールが違って最初は戸惑った。
- 授業や配付プリントで用いる言葉や漢字が既習のものかどうか確認する必要があった。テストで小学生に分かりやすい問題を作るのが難しかった。
- (外国語)話すことが主になるため、評価のつけにくさを感じる。他教科の状況が分からず不安である。
- 成績処理について、担任の先生と相談できる時間を確保するのが難しい。
- (家庭科)実技に関しては別日に事前準備が必要なので大変だった。

(図7)

IV 研究の成果と課題

1 成果

「授業の内容がどの程度分かりますか」(図8)については5月よりも約5ポイントの増加、「授業は楽しいと思いますか」(図9)については2ポイントの増加がみられた。

生徒からは、バズ学習を通して「アウトプットする力がついた」「いろいろな視点から物事を考えられるようになった」「分からないところを授業中に解決できるようになった」「すぐに聞く癖がついた」というように、生徒にとっては「自分の考えを伝えたい」「一緒に考えると有意義だ」と分かる喜びや学ぶ意欲に繋がっていることが推察できる意見が見受けられた。

心情面の「自分には、よいところがありますか」(図10)というアンケートに

ついては約8ポイント増加し、生徒からは、「友達と勉強関連の話をよくするようになった」「他人を思いやれるようになった」というように、自尊意識の高まりにも繋がっていると思われる意見があった。

また、教員アンケートからも、「中心発問を1つに絞る」「1時間の授業のどの場面でバズ学習を取り入れるか」「説明をしすぎない」など、今までの自分の授業を振り返り、改善していこうという意識の表れが見られた。

2 課題

(教師)

生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。

指標

5月調査 94.4%

11月調査 88.9%

(図11)

生徒が協働的・探求的な学習を進める手段として、タブレットPCの効果的活用を行っていますか。

指標

5月調査 28.6%

11月調査 33.3%

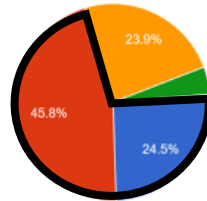
(図12)

「生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていますか。」(図11)については5.5ポイント減少した。研究を進める中で、教師が自らの授業を振り返り、あの場面での「発問や指導」は生徒が様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするのに、本当に有効だったのか、(授業とは別の)こんな問いでもよかったのでは、など改善の意識を持ち取り組んでいこうとする意欲の表れではないかと考えられる。

また、「生徒が協働的・探求的な学習を進める手段として、タブレットPCの効果的活用を行っていますか。」については、4.7ポイント増加したものの、約3割程度の達成率であった。(図12) 習得した知識・技能を活用し、まとめの資料を作成したり、発表したりする際に、タブレットPCの活用が有効であることは周知の事実である。そのためにも、教師に対する継続的な校内外の研修体制は不可欠である。

項目 授業の内容がどの程度分かりますか。

(図8)

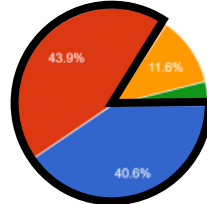


● よく分かる
● だいたい分かる
● 分かることと分からないことが半ずつある
● 分からないことが多い
● ほとんど分からない

5月: 65% 目標値: 70% → 11月: 70.3%

項目 授業は楽しいと思いますか。

(図9)

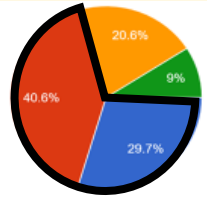


● 思う
● どちらかといえば思う
● どちらかといえば思わない
● 思わない

5月: 82% 目標値: 85% → 11月: 84.5%

項目 自分には、よいところがあると思いますか。

(図10)



● 思う
● どちらかといえば思う
● どちらかといえば思わない
● 思わない

5月: 62% 目標値: 65% → 11月: 70.3%